

1995
第6号

竹早 会報

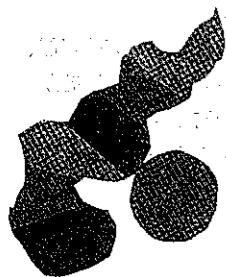


総会のお知らせ

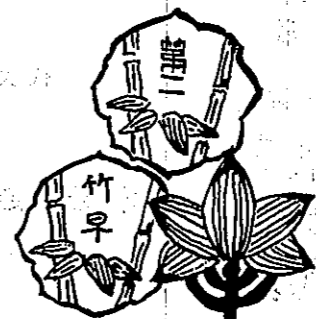
同期会は楽しい、もっと多くの人に出会える総会に参加しよう!

平成7年度 篁会総会

日時：平成7年6月3日(土)
会場：如水会館 スターホール
お話し：写真家 秋山庄太郎氏
懇親会：立食パーティ



東京府立第二高等女学校同窓会・東京都立竹早高等学校同窓会



篁会報

第六号

平成七年四月二十二日発行

発行・篁会

東京府立第二高等女学校同窓会

東京都立竹早高等学校同窓会

〒200 東京都文京区小石川四ノ二

東京都立竹早高等学校内

編集・篁会編集委員会

印刷・髷ニット・印刷所

〒60 東京都文京区千駄木三ノ三ノ二

電話・〇三(三八二)〇二二〇

編集委員

内山 隆子	高女四十九回生
森本美智子	高校三回生
向井 正昭	高校四回生
八木茂太郎	高校五回生
坂本たま子	高校五回生
曾我部久子	高校七回生
山廣 俊雄	高校七回生
関 文隆	高校十回生
角掛 隆	高校十回生
今永 紬子	高校十回生
吉岡 忠俊	高校十三回生
渡辺 信博	高校十三回生

表紙イラスト

染色工芸家

坂本たま子

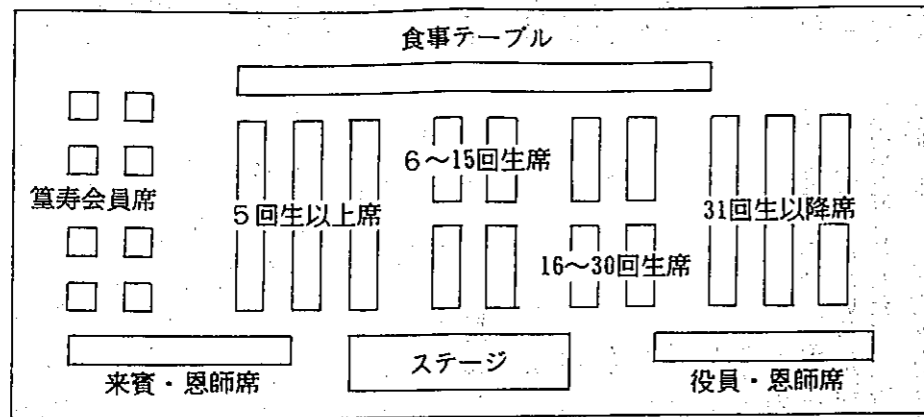
高校

油木沙弥郎

五回生

総会のご案内

- 今回のテーマ
 - 先輩、後輩の交流を重視した企画を立ててみました。
 - 恩師の参加をお願いし、OBクラブのご協力を得て幅広い交流の場にさせていただきます。
 - ご自分のお仕事や生活をふくらませる場にして下さい。
- 協力をお願いしたOBクラブ及び同好会
 - 生物クラブOB会 美術クラブOB会 バレーボールOB会
 - 音楽関係同好会 テニスクラブOB会 他
- 会場の設定
 - 卒業回数別に席を設定し、受付の際、色別の氏名プレートをお渡しします。
 - 筮寿会員の方には椅子席を用意しました。



4 出席者名簿の作成

下記の出席ハガキを資料に当日のプログラムを作成したいとおもいますので、ご出席の返事を5月20日迄に必ずお出しください。

出席者名簿の記載例

種別	回生	氏名	旧姓	お仕事・学校	クラブ名	趣味
高女	35	井上 京子	山田			茶道
高女	40	中村くに子	伊藤	中村歯科医院		華道
高校	5	石井 一郎		田中産業(株)	野球部	テニス
高校	10	藤田 和子	高野	フラワーデザイン	バレー部	ゴルフ
高校	20	高橋 勇		弁護士	テニス部	テニス
高校	30	森 弘子	宮田		生物クラブ	手芸
高校	45	佐藤 秀夫		早大文学部3年	美術部	音楽

平成七年度 筮会総会

出席致します

出席される方のみ 5月20日迄にご返信下さい

卒業年度	大・昭 平成	年卒	高女・高校 回生
より 氏名			旧姓
住所			

お仕事	
在学中の 学校名	
在学中の 所属部名	(OB会名)
趣味 スポーツ他	
作業欄	プログラム ネームプレート 保存記録

太枠の欄は必ずお書き下さい

筮会総会は情報交換の場

平成7年度 筮会総会の御案内

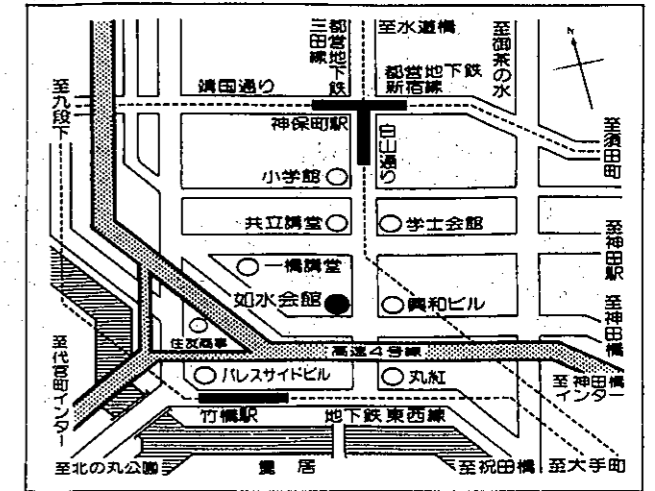
日時：平成7年6月3日(土)
午後12時00分 受付開始
午後1時00分 総会開始

会場：如水会館 スターホール
東京都千代田区一ツ橋2-1
☎03-3000-0001

会費：¥6,000. (学生：¥2,000.)

お話し：写真家 秋山庄太郎氏
『我が青春、そして花』

懇親会：立食パーティ



秋山庄太郎氏 (写真家) プロフィール

1920年東京生。早稲田大学商学部卒業
日本写真家協会名誉会員
日本広告写真家協会名誉会長
二科会写真部創設会員
花の会会長
日本写真芸術専門学校校長 その他

1986年紫綬褒賞受賞
1993年勲四等旭日小綬章受賞



作品集

処女作品集『驕』を始めとして37冊、婦人科として知られた秋山さんだがもう一つの顔は『花写真家』、ここ4年間で『花356』シリーズを5冊出版した。

今回幹事：高校5回生 (S28年卒)、26回生 (S48年卒)、46回生 (H6年卒)
次回幹事：高校6回生 (S29年卒)、27回生 (S49年卒)、47回生 (H7年卒)

御挨拶

委員会長

愛知 富



今年も例年どおり、竹早高校の卒業式に参列させていただきました。諸先生の御薫陶の賜物でめでたくこの晴れの日をお迎えになった卒業生の皆様、その喜びの姿を目を潤ませて見入っておいでの方々の、何時にも変わらぬ情熱ながら私は胸が一杯になって、同窓会代表としての拙い祝辞を申し述べた次第でございます。こうして新しく学窓をお集立になりました二五七名の皆様は、もちろん全員私どもの「董会」に新会員としてお迎えしたわけですが、同窓会生総数は昨平成六年既に一六、六四二名の多きを数えるに至っていると承っております。半世紀も前の卒業生の一人として本当に喜ばしく、心強い限りと申すほかありません。多年の懸案でした改築も、来年三月には体育館の棟も出来上がり、全館の完成を見ることとなります。

改めて申すまでもなく、我が国は現在内外共に何かと事多く、私どもも一層心を引き締めなければならぬと考えておりました矢先、阪神方面に思いも寄らぬ大地震が発生して、未曾有の災害を惹き起こしたことはまだ記憶に新しいところです。一日も早い復興をひたすらお祈りするばかりでございますが、同地方には同窓の方々も多数御在住です。直接間接に被害をお受けになった方がおいでになりはしないかと

着任の挨拶

校長 筒井 利行



昨年四月、前金井忠雄校長先生の後任として第二十一代目の校長として着任いたしました。この一年の間にも愛知董会会長さんをはじめ、役員、理事そして会員の皆様方からいろいろな場面でのご支援をいただきました。大変有難く思うと同時に、都立高校の中でも数少ない百年にも及ぶ歴史を有する伝統校の重みを感じました。二十一世紀が指呼の間に迫っており、その二十一世紀の入口に立つ時、竹早高校は百周年を迎えます。

明治の偉大な教育家杉浦重剛先生の開かれた「称好塾」ゆかりの地に、家

学校の現状

教頭 高原 将

平成七年度入学選抜

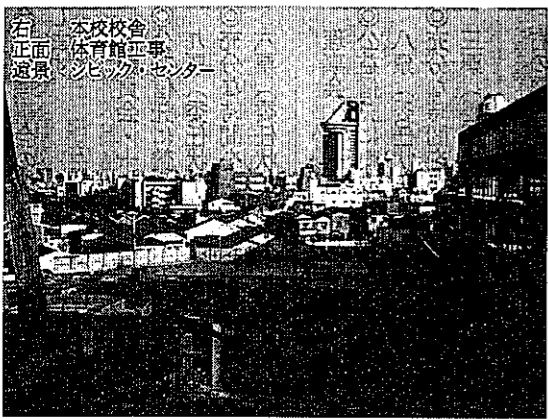
区分	募集(定員)			応募			入学			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
生徒対象 海外帰国	四月入学	/	/	18	31	15	46	10	3	13
	九月入学	/	/	2		未実施			未実施	
	小計	/	/	15	-	-	-	-	-	
一般生徒対象	推薦入学	28	20	48	85	172	257	23	23	46
	一次募集	96	84	180	191	197	388	95	107	202
	四月転勤枠	/	/	2	0	1	1	0	1	1
	小計	119	104	225	276	370	646	118	131	249
計	/	/	240	307	385	692	128	134	262	

第二高女時代の生徒数は、一クラス五十名の二クラス編成。計百名が基本であり、竹早高校になってからも、一クラスの定員は、四十数名から、時には五十名を超える時もあったようである。現在は平成五年入学の三年生が四十二人、平成六年入学の二年生と今年の新入生は四十名が定員である。現在二年生は定員に近いが、一年生・三年生は定員をかなり上回っている。

平成七年度入学選抜は左の表のように区分しておこなわれた。

第二期工事について

写真をご覧いただくように、現在第二期工事が急ピッチで進んでおり、来年早々には、地下一階と一階に体育館が、その上に人工地盤をつくらせて人工芝を敷くという画期的なグラウンド(都立高校としては始めての工法)が完成する。旧体育館の解体、埋蔵文化財発掘、第一期工事、旧校舎の解体から第二期工事完成までは、七年越しの工事であり、完成のあかつきには、多数の卒業生の皆さんの施設見学を御待ちしている。



本校校舎正面
体育館工事
芝生グラウンド

塾の精神やその学風の影響を受けた第二高女。そして竹早高校の教育は、自主自律の精神を継承し、名門竹早の名を世に広げてきたと伺っております。

本校の同窓生は、この地に育まれ、それぞれ社会の各方面で活躍され、心強く感じております。そして、陰に陽に本校に対してご支援をいただいております。ことに心から感謝をいたします。

都立高校の入学選抜制度が平成六年度から単独選抜制度に、そして平成七年度から推薦制度が導入されました。推薦入試では応募倍率が約六倍にも達し、女子の倍率は八・六倍という高い倍率でした。本校への関心の大きさが読みとれます。

また、平成七年度から月一回の学校週五日制が実施に移されます。教育課程上、学校運営上課題も少なくありませんが、これからの時代に生きる生徒たちの望ましい人間形成を図るというこの趣旨を十分に踏まえ、教育活動を進めていくことが期待されているものと受けとめております。

校舎改築も着々と進められ、平成八年一月に竣工という予定で、第二期工事の体育館、格技棟、特別教室等の骨格も見られるようになってきました。このように施設、設備の整備とともに、新たな教育の流れをしっかりと受けとめ、教育の充実を図っていくために董会の皆様方の変らぬご支援をお願い申し上げます。

竹早高校は創立百周年に向けて、その準備を始める時期を迎えております。同窓生の方々のご理解を得て、資料、写真等の収集も考えていかなければと思っております。よろしくご協力賜りますようお願いいたします。

百周年に向けて資料提供のお願い

明治三十三年(一九〇〇年)に創立された本校は、今年で創立九十五周年を迎え、あと五年で百周年を迎える。都立高校で百周年を御祝した学校は、日比谷高・白鷗高・戸山高・八王子工業高校の四校のみであり、本校が五校目となる。それぞれの学校では、百周年を記念して式典・記念行事をおこない、記念誌を発行している。卒業生の皆さんの御協力なくしては、実施し得ないことであり、今から御支援、御協力を御願います。次第である。なかでも記念誌の発行は、資料の収集、編集等に時間がかかるものであり、そろそろ動きはじめる必要があると思われ

本校では、創立七十五・八十・八十五・九十周年の四回、記念誌を発行しているが、それぞれ二十数ページから五十数ページの冊子である。百周年ともなれば、かなり大部の記念誌を発行することになると思われるが、そのための資料は、校内に十分に保管されているとはいえない。そこで卒業生の皆さんから在学中の資料(例えば教科書、学校からの配布物、卒業アルバム、文集、その他当時の学校生活を示すもの)を御借りするか、御譲りいただければ幸である。特に卒業アルバムについては、次の年度のもは、学校に保管されていないので、御協力を切に御願致します。(学校に現存する最古のアルバムは、明治四十四年三月卒業の第十一回生のものである。)

第二高女	卒業
14回生	大正3.3
15 " "	3.3
24 " "	11.3
28 " "	昭和8.3
37 " "	12.3
45 " "	20.3
竹早高校	卒業
1回生	昭和24.3
5 " "	28.3
6 " "	29.3
8 " "	31.3
13 " "	36.3
21 " "	44.3
28 " "	51.3

(財) 笹会館

理事長 吉澤 とよ
(高女三十五回)

春のきんぎょを感じておりましたところ、突然の神戸方面の震災で、心いたむ毎日が続いております。

さて、笹会館のことではございますが、昨年、十一月五日と十九日の評議員会と理事会には、役員の方々からの質問がある場合を考慮しまして、都庁の法人増広の中倉さまにもおいでいただき、結局、財団法人笹会館は公益信託に向うことになりましたので、とりあえず、現在の御報告いたします。

一月十日

追加事項
十一月十九日に行われました評議員

会及び理事会の採決の結果を報告致します。

- ◎評議員会・十五名
- ◎公益信託に賛成する
九票(委任状7名)
- ◎十分な時間をかけて検討・討議する
六票(委任状2名)
- ◎理事会・十一名
- ◎公益信託に賛成する
八票(委任状3名)
- ◎十分な時間をかけて検討・討議する
三票(委任状1名)

右の票決をもって、公益信託の方向づけを議決の一つとして定め、その検討委員会については吉澤理事長に一人任することを決定致しました。

(財) 竹早会

理事長 岩田 隆子
(高校十一回)

「財団法人竹早会とは何か？」とお尋ねを受けました。会社の定款にあたる財団の「寄付行為」に定められた目的を達成するために、必要な事業が行われています。

(財)竹早会の「寄付行為」に定められた目的は「竹早高校の教育環境の整備充実を図り、生徒をはじめ同校関係者の福利厚生を増進することにも、その施設を他にも提供し、施設、人材機会を活用し、自然と共存しながら、自立と協同の社会を目指した文化活動、芸術活動、研修活動、スポーツ等自主的な学習を推進することをもって教育の発展に寄与することを目的とする」とあります。(財)竹早会の維持運営に当たっている理事は、この目的を推進する代行者と云うこととなります。この目的に添った事業活動をするために管轄官庁である東京都庁に申請、許可をもらい結果を報告いたします。

財団の基本財産である清里の林間施設八ヶ岳寮の維持運営が重要な活動になっておりますが、正直に申し上げて、竹早高校関係者によって活発に利用され、経済的に安定しているとは云えません。延べ人数で年間二千人弱の利用です。財団の見直しの中で荷が重くなればいつでも解散を考えた方がいいといわれています。竹早会の維持運営に当たってまいりました者と致しましては、設立に寄与なさった方々のご意志、利用した方々の思い出と愛着、今まで支えて下さった多くの方々のご厚意に添える為にも、一度手放してしまえば一

笹会館土地売却に伴う会計報告書

平成6年5月7日現在

1. 入金		
手付金 (平成5年12月21日)	22,600,000円	
残金 (平成6年4月1日)	89,449,726円	
合計	112,049,726円	
2. 支出		
土地鑑定費 第一回目 (三井信託)	759,110円	
同 印刷代	100,000円	
測量費	150,760円	
土地鑑定費 第二回目 (三井信託)	386,250円	
司法書士料	8,700円	
仲介手数料 (平成6年4月1日)	3,000,000円	
合計	4,404,820円	
3. 差引	107,644,906円	
4. 利息 (手付金の3ヶ月定期)	80,246円	
5. 総合計 (現在額の内訳)	107,725,152円	
3ヶ月定期預金	22,680,246円	
普通預金	85,044,906円	
合計	107,725,152円	

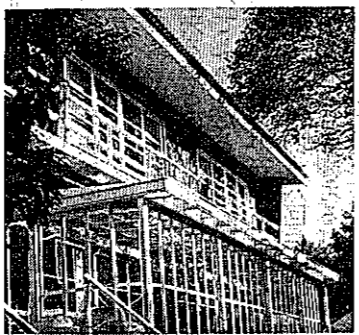
報告者 理事長 吉澤 とよ

◎ 東京事務局

文京区千石二二四一
☎〇三(三九四三)二四一五

◎ 八ヶ岳寮

山梨県北巨摩郡高根町清里小学校寮区
☎〇五五一(四八)二〇三二



◇ 東京の活動の「案内」◇

度と手に戻らない一万坪以上の自然林の中の宿泊施設を何とか維持し、これからもっと有効に生かして行きたいと思っております。

クラス会、同期会、サークル活動の場として有効にご利用いただくほかに、皆様の交流を図り、交流の輪を広げるために、皆様の提案を取上げ楽しい活動をして行きたいと思っております。

同窓の絆の関係を生かし世代間の交流を図る活動を東京で企画し、なるべく多くの方々に参加いただき、共に生きる仲間として再認識いただくことで活性化出来ると思っております。

活動のありさまを詳しく紹介いたしますので、わしいことは事務局にお問合わせのうえ、お時間がございましたらのごとくご来館ください。

◇ 清里での主な活動◇

【ハイキング】

毎月一回リターナー付きで約四時間、植物を観察しながら歩きます。

【作陶】

初心者でも伊藤修身先生の指導で出来ず。灯油窯で釉薬をかけてもよし、希望で年一回(六月、十月)の六窯(新窯)に入れることもできます。

【食養生セミナー】

五月と十月に「油」を先生の講義、朝の散歩、森林浴、宇宙体操、体験学習

【草木染め】

八月に二泊三日で植物採集をして、植物のエキスを抽出、布に染めます。

関西笹会

関西笹会会長 内藤 花
(高女二十八回)

阪神大震災に際して

此度の大地震にあわれた皆様、其後如何お過ごしでしょうか。

日のたつにつれて、その範囲の広さ、被害の大きさが報じられ、同窓の方々が大勢お住居の地方なので、一層心痛む事ではないかと。御家の倒壊など大きな被害を受けた方々の御様子が入って参りましたが、唯今の處、御一人もお体にお障りなかつた事が、唯一の安らぎとなっております。一ヵ月近くたった今も猶、ガス・水道等の不通に御不自由な日々をお過ごしの方々、

【作陶会】

毎月第一の金曜・土曜(夜更有り)佐藤省先生の指導で、作陶を楽しんでおります。東京で焼成までして、本焼きは清里の六窯で薪で焼くこともできます。

○場所 文京区立音羽生涯学習センター
○費用 三千五百円(粘土一キロにつき半習費、焼成代、等含まず)

○費用 一回三千円(五ヵ月分先払)

○場所 文京区立音羽生涯学習センター
調理実習室にて

【食養生セミナー】

毎月第三木曜日に佐藤省先生の指導で旬の材料を使い、体調に合わせた食養生を調理実習をし、試食しながら勉強いたしました。

○場所 文京区立音羽生涯学習センター
調理実習室にて
○費用 一回三千円(五ヵ月分先払)

お寒さも一番厳しいこの季節に、懐かしお辛い事だろとお察し申し上げ、何のお役にも立てない我身を申訳なくもどかしも思わずに居られませんか。一方で、普段は問題にされなかつた若い方々が、或は団体で、或は個人で、ボランティアとして、目覚ましい活躍をされた事に、深い感激と頼母しさで嬉しい限りでした。

ボツボツ恒例の関西連合会の準備にかかる頃となりましたが、この分では、会合も持てるかどうか、近く何人かの方達と御一緒に考えなければと思つて居ります。

被災地の皆様には、遅くお働きのご様子など承りますが、何卒呉々もお疲れの出ませんように、明るい春の日射と共に、新しい日々を取戻して下さいますように、心からお祈り申し上げます。

湘南簞会

湘南簞会会長 神谷 美喜子
(高女三十一回甲)

先人の申しました様に、地震・雷・火事 何とやら、本当に恐ろしい地震に襲われ、後に起つた火事で何十万人の方々の罹災された関西の皆様、連合の会員の中にも恐ろしい思いをなされた方も多数お出でいらつしやるのではないかと心から御見舞い申し上げます。

先日は簞寿会の御集まりのお知らせをいただきましたが、何えは、近二・三年のうちに閉会になると云うような事が記されてをりましたが、永く永く続いて、益々御盛会のように拝見します。

簞会総会を終えて

高校四回生

天候を心配しながらも、心暖まる会にしたいと一年前から準備に当たつてきた簞会総会を、平成六年六月二十五日(土)に、なつかしい竹早高校近くの茗溪会館に於いて開催致しました。

梅雨の中休みの日に、来賓の先生方十二名、女学校卒業生(昭和二年)二十四名(約三十名)、高校卒業生(昭和二十五年)平成五年(約百四十名)、と沢山の方々が御集まりで大盛会でした。

総会第一部は、愛知賞会長の挨拶、筒井利行校長のご祝辞、事業報告、会計報告、理事紹介、会報委員会報告等と議事が滞りなく進みました。(なお会計報告は文末に掲載致しましたのでご覧下さい。)そして今回メインの講演に移りました。

子どもの歌をはじめ歌曲、合唱曲、ミュージカル、ピアノ曲等多数の作曲をなさつていらつしやる大中原先生の「私の音楽人生」心はいつも少年のように「のお話です。先生はご自身の音楽人生についてさくばらんな語り口で、次から次へとお話し下さいました。お父様はあの有名な「やしの実」の作曲をなさつた大中原先生。教会音楽を作曲されたり、教会でオルガンストとして活躍されたそうです。

恩先生は親の反対を押しきつて作曲家になったことが自分の支えとなつてきたとのこと。お母様は、伝道師になるようにと薦められていたそうですが、小さい頃から聖歌隊で歌っていた、進路を決める頃、あこがれていた

てをりましたが、皆様のお楽しみを閉会なさるのは勿体ないように思えます。何らかの形で残して行く事は出来ないものかと、残念であり、又大変淋しい気がいたしますが、皆様如何でいらつしやいますか。御一考をお願いいたします。

学制が変わり、高女四十六回までは女子のみ、その後は新制にて共学の竹早に変わりましたが、平均寿命も長くなり老人と云われる人も多くなり、但し昔と違う事は、皆が元気で外出出来ること云う事。自分のクラスばかりか、前後の方々にもおめにかかれる唯一の会とも思います。何とか御一考下さると嬉しいのですが。

湘南の簞会はおかげさまで平成六年度も例会を開き、今年も少々場所を変え、葦山森戸海岸の海狼にて四十人程の御出席で賑やかに開かれました。だんだん御若い方が増えて喜んでおります。

湘南の方以外の方もどうぞご気楽に御参加下さいませ。

簞会皆様の御健勝を心からお祈りいたします。

簞寿会

大坪 薫 (高女四十六回)

平成七年度の簞寿会を、三月二十九日学士会館にて開催。今年の桜はより美しく願って、終了後お花見バスの



牧師の妹さんから「音楽をやるように」と話され、決心がついて音楽の道に入られたのだそうです。五十年ぶりに合唱会場で再会し、音楽をやっている良かったなど、楽しいお話にはにぎやかな笑い声があちこちから聞こえていました。

ご自分ではお二人のお嬢様に、人前に出ても自信をもってできることを身につけさせたいということ、下のお嬢様に音楽を叩き込んだけれど、それが苦しかったのか、音楽には進みたくないと言われ、後日音楽から解放されたこと、今の教育ママにちょっと役立ちそうな回想があったりしました。

今まで音楽を遊んで来たけれど、いつまでもアマチュア精神で新鮮な気持ちをもって音楽をやっていたと思つていらつしやるのことでした。

この後第二部の立食パーティが賑やかに行われる中、来賓紹介等がプログラムに従って進められました。そして気分一新

運行を企画しましたので、お天気が一番気がかりでしたが、雨の少ないはずの空模様でひと安心。お寿をお迎えの方を最高に二六〇余名、空前の出席率で正午過ぎ開会。湘南会長神谷美喜子様のご挨拶、高校五回生八木茂太郎様の簞会への誘い、簞会長愛知賞様の乾杯のあと会食。終つて、お待ち兼ね神田紫師匠の講談、四十六回生安永道子さん作の「源三位頼政めえ退治」の一席、「お歌あわせ」は柳沢吉保にゆかりのあるお話で、大変好評でした。

校歌斉唱、しみじみと心うたれる閉会の辞、「名残りを惜しんで」のセッションで皆様をお送りしました。異常な事件が多発して居ります昨今、学舎を共にした同窓生が一堂に会して、和やかなひと時を過ごせましたこと、いっしょに増して嬉しく思いました。

終了後、二〇〇余名が三台のバスに分乗、武道館、靖国神社大鳥居を右手に見て、千鳥ヶ淵、お濠ぞい、憲政記念館前庭、首相官邸、迎賓館とまわって東京駅に五時二〇分着、解散。所々に紅い緋寒桜や早咲きのそめい吉野を見つけて歓声をあげ、面白い解説を聞きながらの楽しいバス観光でした。普段あまり来ることのない都心の桜の名所を廻れてよかったです皆様大喜びでした。元国会図書館職員の方安永道子さん(司会者)を中心に、四十六回生一同みなで協力して無事会を終える事が出来、ほんと致しました。

いま桜 さきめと見えてうす曇り春にかすめる世のけしき哉
式子内親王

再び大中原先生にご登場頂き四回生の吉沢映子さんとの歌の会になりました。大中原先生の作曲による「さくちゃん」「大のおまわりさん」「ハンカチさん」とちりがみさん「前出の」やしの実」(この歌は東海林太郎さんによって発表されたのだそうです。)と、歌にまつわる話やご感想など織り込まれたり、擦声が入ったり、二重唱になったり、参加者も大きな声で一緒に歌って楽しみました。前後に高女、高校の二つの校歌を歌って思い出のページは閉じられました。

竹早の四回生は、紫竹会として毎年同期会を開いていますが、今回は総会の後に反省会をこめて集いました。不手際な点があったかと思いますが、私達は六十才になったら一生に一回というチャンスに全力を注いで務めさせて頂きました。

簞会に出席するのがめんどうだと思われる方、若返りの薬になりますので次回には積極的に参加下さいませよう、おすすの致します。

平成5年度簞会会計報告

収入 総計	7,835,355	平成5年4月1日より 平成6年3月31日まで
支出 総計	1,723,738	
次年度への繰越	6,111,617	
〈収入内訳〉 (単位 円)		
会費	1,305,000	新48回生281名分(⑤5,000)
利子	192,933	東京都教育信用組合、郵便局
寄付	0	
前年度より繰越し	6,337,422	
合計	7,835,355	

〈支出内訳〉		
事務費	98,000	8,000 X 12ヶ月
通信費	6,988	役員連絡用はがき、封筒補充
会費	137,100	新役員歓迎会、役員会費
庶務費	289,760	卒業証書入れ、祝い袋 新入生用パッチ、寄付 校舎落成記念誌費
印刷費	300,000	
総会補助費	72,100	簞会会員名簿
交通費	296,820	総会補助費
交遊費	25,000	関西連合会参加費
簞会館運営補助費	500,000	会館維持補助金
合計	1,723,738	

以上の通り、ご報告致します。この会計報告は、6月9日の理事会で承認されたことも、合わせてご報告致します。
平成6年6月25日
簞会会長 愛知 實行
簞会会計 荒川 智一
簞会監査 荒川 智一

阪神大震災に際して

河合 道子 (高校三回)

天災は忘れた頃にやってくる、いえ忘れたのではなく、関西は地震が無いので住み易い、安心だと、聞かされ続けて参りました。

然し、一五九〇年、京都地方の大地震で、伏見城が倒壊し、秀吉が顔を青くして恐がっている所へ、謹慎中の加藤清正が真っ先に馳けつけたと云う話が示す様に、地震・断層地図を掲げると、今回の震源地は申すに及ばず、京都から琵琶湖周辺にかけて被災だらけの容相を呈している事が良く分ります。

京都はその内にきつと地震が起きると口ぐせに申して居りましたが、誰も取合ってくれませんでした。今回の大揺れに、真っ先に思ったのはどこが震源地かと云う事でした。

TVや新聞等で既に御承知でしょうが、現場に立って見ると、被害の実感を通り越して、これは作られたステージではないか、瓦礫の隙間に覗く青空や雲はデジタルな仕掛けではないのか、感覚が倒錯致します。それ程に、町並みがクシャクシャになってしまいました。人々は一様に黒ずんだ服装に、老若男女リユック、スポーツ靴。話し声も立てず、音楽も聞こえず、唯黙々と歩を進んでいる人で、音の無い町が出現していました。しーんとしている丈です。

さて、関西盆会は現在二百有余名の会員が居られますが、その何割かが今回の被災地にお住いです。皆さんの安否を気遣っております。

先ず、往復はがきでお尋ねをして、御返事の有無を頼りに消息確認をする事になりました。又、例年六月の総会開催が危ぶまれる所から、会期を延長し、十月十五日に開く事に致しました。名簿の見直し、お尋ね、可能な限りの御見舞等、幹事事務局の西出副会長を始め、作業に当る方は忙しい事になります。十月には一人でも多くの会員方が元氣な顔を見せに集って下さる事を願わずにはいられません。

会場は、京都平安神宮で、宮司様の卓話、本殿神事、庭園見学、和食を準備して居ります。

盆会の皆様、是非京都の総会に御参加下さい。被災にも負けず、関西盆会の一同が、努力を続けている事に声援を送って下さい。

皆様の御参加が私共に取って、何にも増すお励ましと確信しております。どうぞよろしくお願い致します。

(平成七年二月二十日) (京都在住)



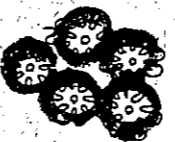
佐紀・佐保路を旅して

郡 佐代子 (高校四回)

関西に移り住んで約三十年、折々に京都奈良の古寺、庭園、路を訪れ、散策し、通り過ぎて来た。その中で特に古代を感じ引き込まれそうになる古蹟古寺、自然を持つ佐紀・佐保路は、日常の中の非日常性を感じて再三訪れて来た。その昔、都であった平城京跡の北辺を巡る路で、古寺巡礼の路とも云われている。

最初に訪れるのは大茶盛で名高い西大寺で、建立当時は、東の東大寺と並び稱されていたそうだが、現在、当時の隆盛を感じさせるものは、東塔跡の、大きい基壇と礎石だけと云われている。訪れた日は、大茶盛が行われており、直径三十センチはあると思われる抹茶茶碗は、手にずっしりと重く法衣の僧の、立出し、お運びのお薄は、なかなかのものであった。寺を出て、雑木林を北にのぼると、伎芸天で有名な秋篠寺に着く。山門の扉もなく、ひっそりとし佇い秋篠寺は、その名を愛でて、訪れる人が多いと聞く。久しぶりに仰ぐ伎芸天心がときめく。日本唯一の伎芸天で頭部は天平末期の乾漆、体部は木造彩色像であるが、みごとに一体化して、美しいお姿を造っている。高貴な雰囲気だたよい、両耳にかかる渦巻き状の髪がとても美しい。千年の重みを宿して、語りかけてくる永遠の笑みに魅せられて吸い寄せられていく心持ちになる。み仏は美しく、春風の中には、えんでおられる様であった。

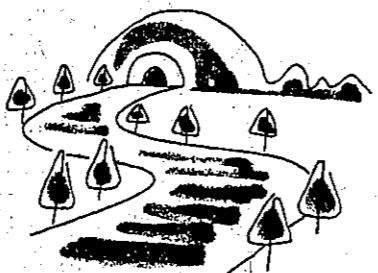
感じの寺であった。今補修された寺をみると、朽果して、今にも崩れ落ちそうな入口の土塀がなつかしい。



いよいよ、佐保路の中心となっている法華寺に入る。光明皇后創建の尼寺であり、秘伝十一面観音が有名である。筋屏のつづく、玉砂利の美しい尼寺である。観音は私にとつて特別の仏である。父も母も信仰の厚い人で、庭に観音を祀り、近所の人々も拝んでおられた。少女の頃から、観世音菩薩普門品第二十五や般若心経に親しんだ私は、一切の苦楽を衆生と共にせんとする観音に、自然と手が合い、心安らくなるのである。本尊の十一面観音に今も残る唇の朱き色は、当時の惱める人々の心身をふるい立たせたにちがいない。光明皇后の慈悲の心の色を仏師がさした色でもあろうか。右足を一歩力強くふみ出したお姿と共に、つよく魅かれるものがあつた。

左端には、横笛の像がある。滝口入道の恋文を張り合せて造つたと言われ、以前はもつと楚々とした風情であつたので、尼僧におたづねすると、「新しい御厨子が出来て昇格したので、美しい京言葉がかえつて来た。年月は仏像にも、寺にも、扉にも変化を刻んで過ぎていく。

帰路、車窓から平城京址を眺めた。咲く花の匂うが如くと謳われ、仏教文化の栄えた古都跡である。天皇が住居し、十万人と言われた人々が生活した都が今、解明されようとしている。生



まれては滅びる歴史の中に観音のお姿を垣間見た土地である。常に自然と人と仏が一体化して精神的風土を造っている佐紀・佐保路はたおやかに私を包み込み、又、印象深い路となるのである。

(平成六年年度関西盆会報より)

この度、阪神地区にお住居の盆会会員の方々には大震災に遭遇され、思いもかけぬ被害を受けられた御様子。色々と、マヌロシ・ロコシで報道されてまいりました。心よりお見舞い申し上げます。又、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

盆会会報委員会一同

お知らせ

各地で、関西盆会・湘南盆会のような集まりがある場合、会報に記載したいと思ひますので是非、お便り下さい。尚、全国各地域別の会員名簿がありまします。都立竹早高校内・盆会会報委員会まで一報頂ければお送り致します。



世の中にたえて櫻のなかりせば、櫻の花をかざして詠んだという歌と、ふくよかな美男の絵であった。歌の才能と華やかな恋で知られる業平が祖父平城天皇の一族であると云う影をひきずって、藤原氏中心の主流からはずれていった事も知り、古代の光と影を、垣間見た様な気がした。

秋の不返寺も美しい。美男の咲く秋。又訪れたいと思つている。不返寺の右手に黒々とした森が見える。前方後円墳で、宇和奈辺・小奈辺古蹟があり、埋葬者も不明で謎めいているが、古代の人々が限らない敬愛を、御陵に捧げた事であろうと思ひつつ、強く印象に残っている海龍王寺へと急いだ。以前訪れた寺は、いつの間にか、古代に引き込まれていきそうな荒れ果てた

先生の消息

織戸(小宮山)さなえ先生

(数学)



小宮山先生が気軽に私どものインタビューにお答え下さったのは昨年の暮先生も走り廻ると云う師走も半ばを過ぎようとしてチョッピリ風の暖かい日でした。

先生のセーターはバット付き

先生に私共五回生を担任していただいたのは、昭和二十七年、日本は戦後の混乱がやっと落ち着きを見せて来た頃でした。当時色美しい服装がめずらしい時代、カラフルな上に肩パットの入ったピンク、スカイブルー、ブルー等の鮮やかな横縞のセーター、肩から出るいぶるのスカーフと云ったファッションで先生は数学の教鞭を取っていられました。私どもが卒業し、大分経ってからの話して、そのセー

ターは御自分でお編みになったものであった由、編物らしくなく着こなしたかった事等を伺い、そんな女性らしい一面をお持ちだった事等がなつかしく思い出されます。今でもお孫さんのもの等時々編まれるようですがあまり歓迎されない様だと笑っていられました。

ビックリするやら懐かしいやら

現在の学芸大の前進である女子師範を卒業後、お茶の水女子大の数学科を昭和二十年に卒業、関西の京都府立第二高等女学校(現在の鴨沂高校)に赴任、その後昭和二十三年十月数学の先生が欠員であった都立第二高女に転任、着任しておどろいた事に、他に数学の先生が一人もいないのでびっくりした心細い思いをされたり、当時の校長先生は中路先生、歴史の石川先生、英語の黒沢先生、音楽の塩崎先生の各先生は女子師範で、学生として学んでいた頃の恩師で、特に石川先生は西洋史の授業を受けて居られなつかしく思われたとの事、新制中学、新制高校の発足、男女共学などの教育改革が行われて間もない頃、若い先生方も多く、世の中の復興の気運と相まって学校は活気に溢れ、先生もお若々元気にまかせやりたい事をやり、言いたい事を言うて居られ、今考えると恥かしい思いがする、と、若い頃に想いを馳せて居られました。

小宮山先生が担任されたのは、高校三回生、五、九、十五、十九、二十一回生と多くを教え、特に九回卒と十五回卒の方達とは今でも親交があり、九回生の皆さんと清里の学校寮や伊豆に

齊藤康一氏 (高校五回)

*日本写真家協会会員

*六の会同人

*NHK文化センター

NHK学園講師



待ち合わせの時間にやや遅れて現れた齊藤康一氏は、ダンディな雰囲気を持たせ、物腰も柔らかく、さわやかな方、と言った表現がお似合いです。

齊藤氏は、高校五回卒。氏に写真家志望の動機、写真を通しての人生観と言った事でインタビューさせて頂きました。

早速ですが、何故、写真家を志望されたのでしょうか?

(齊藤) 私は、勉強が嫌いで、サラリーマンのような職業には就きたくないと思っただけで、大学には行ってからもその意識は持っていました。友人に写真館の息子も居りまして、これは時間の自由もきくし、良いかなあ、といった単純な動機でした。大学一年の時から林忠彦氏の助手のアルバイトを努め、その後、事務所も同じと言っ事もあって、秋山庄太郎氏の助手もす

るように成り、そのまま自然にこの職業の世界に進む事になりました。当時、写真と言えは報道写真が全盛でしたが、人物を撮るうちに、人物のポルタージェ、写真を通じて何か世の中の「視点」と言った面を追っかけるようになっていました。

齊藤さんのお仕事で中国との関り合いは?

(齊藤) 一九六五年でしょうか。文革前の中国へ、第一回中日青年大交流に日本写真家協会より青年文化代表団の一員として参加しました。これ以後、年一、二回のペースで渡航しまして、約四〇回位行きましたか。

中国のイメージと言った、何かエネルギー感を感じますが?

(齊藤) 最初に渡航した時は、何となく抑圧された印象を持ちましたが、回を重ねる度に印象が変わり、たくましさ、そのようなものを感じるようになってきました。それに非常に人なつこいです。

それで「蘇州にて」、「江南點描」、「上海」と言った写真集を出されたのですか?

是非、お伺いしたいなあと思っただけで居りましたのは、齊藤さんは、「福写真と言ったものをお撮りになつてらっしゃる」とお聞き致しますが?

(齊藤) そんな大袈裟な事ではないのですが、今年で八年程になりますか。私の知り合いの方を中心に、撮って差し上げた写真をポートレートにして居

遊んだ事など楽しそうにお話しいただきました。

高校数学 今と昔

先生は三十三年に結婚、織戸姓になられ、現在は一人娘のお嬢さんも独立され、北大塚のマンションでの一人住い、書をたしなまれ、御家族でよく旅行をされた頃もありでしたが、今は旅行もあまりせず、生涯現役で、と五人の高校生に数学を教えられて居られる生活との事、現在の高校では殆んどどの学生が微積分まで習う故、あまり数学の得意でない生徒の手助けをどの思いと共に「生徒に教えている時が精神を集中出来る唯一の時」「ボケない秘訣は頭を使う事です」とおっしゃる当時と変わらないハリのあるお声から還暦を迎えた私たちより一週り上のお年とは信じがたい思いがしました。

大塚の静かなレストランでの食事時間はあっという間に過ぎてしまい、卒業してからの四十二年間のタイムスリップを楽しませて頂きました。

坂本 たま子 (高校五回生) 記



ります。唯、実質だけは、頂戴して下さるね。(笑)

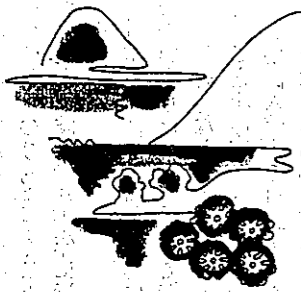
その動機と言ったのも、写真というのは、意外と改まって撮った物がない。写真というものは、メモ替りになるんです。それを記録として残せば、

生活の潤いと言った観点からも宜しいんじゃないでしょうか。年に一回月を決めて撮るようになってますと、生きていく事に対する「感謝」の気持ち満ちてきますし、自分の、身のまわり、を整理しておくという事でも良いかと思えます。昔は家族で写真屋さんへ行って撮ってもらった経験をもちの方が多いんじゃないかと思いますが、家族の歩みと言った面でもお勧めします。それと、特に私の世代、今の60、70才代の人達は、趣味がない人が意外と多い。その点、写真ならカメラも良くなってますし、操作も簡単になってます。写真に限らず、趣味を持たれた方は歳をとらなく、イキイキとした人生を送られるのではないのでしょうか。

本日は、ご多忙の所、有り難う御座りました。今後共、御活躍下さい。

新橋第一ホテルロビーにて

文責 渡辺信博 (高校二十二回生)





☆高女十四回☆ 大正三年卒
深沢 てる

神戸地方の大震災で、同窓の方々をお案じして、お見舞申上げます。私も旧臘九十九才となりました。
昨今の不安定な政界など、朝夕快適な生活もいえず、気のもめることです。日常は元氣旺盛、家の中で自分の用は動いて居ります。散歩も家のまわり位はしますが、時々、車椅子で外の空気に接します。
家族の衣類のほころび、釘つけ、雑巾など、針も持ちます。新聞、月刊誌、其他読むもの大好き。来客、来信、電話等、大歓迎。荻窪にお住居の同窓の方々、どうぞ。

なられた事は何よりの喜びでした。次に悲しいお知らせでは八木君江様が昨年六月御逝去になりました。遠い事とお伺いも出来ませんで京都の樋端様にお願ひ致しました。又、影井、大河原様の御主人を天国にお送りになりました。心より冥福お祈り申上げます。
樋端様はクラスでも一番お若若しくお元氣で、旅行をなさったりお勉強もいろいろで御活躍。又、金谷様は車の運転を御自分でなさって御活躍と聞いております。木下様は暖いゆうゆうの里で静にお暮しです。大蔵様お交りなく海外遊学をお楽しみとのこと。鳥羽様疲れると仰しゃりながらも御健在の御主人様のお食事作りがお仕事。安藤砂川様ともにお体の御工合もよくて静に一人暮らしを楽しんでおいでです。菅野様、武蔵野市に移られお元氣です。田中様は流山に移られてからもお元氣で、私も時折お目にかかるのを楽しんでおります。
井口、宇野、浜中、杉、桜井、大田小平、石井様方お変わりない事と思えます。その他の方々もお元氣の様子お祈り致します。思わぬ関西大震災には心が痛みます。早い復興を祈るばかりです。

☆高女二十八回☆ 昭和三年卒
荒井 きく

私共のように八十才も半ばを過ぎますと、いつも頭の中もはや人生の終りに近づいているのだと云う気持ちになり淋しくなるものですが、そんな気持ちを吹き飛ばしてくれるのがクラス会です。同年配の級友達の元氣な姿を見て楽しく談笑していますと、心が晴れ晴れして氣力が湧いてきます。

☆高女二十一回☆ 大正十年卒
浜田(下瀬)文字
〇三(三六九〇)二三二

①年に一、二回のお集まりができたのも八十歳代まで。九十二歳の年の現在では、お年賀状と電話で同期の皆様との消息が判るという情況でございます。
②お正月に連絡のとれた方々は、有川(藤田)、榎並(小松崎)、尾本(桂)、小林(下山)、千葉(内藤)、神田(宮川)——敬称略——の方々でした。川又(梅田)、幸坂(沖田)、長岡(石塚)様もお元氣のことと存じます。層蘇盃 重ねし朝や ありかたき 幸子

松のごと竹の如くに寿を重ね 俊
私(下瀬)こと歩行困難にて、住いからほど近い病院でお世話になっており、この原稿のために榎並、神田様のお力添えを頂きました。有難うございました。
③西村(伊吹) 恒子様には昨平成六年二月二十三日逝去の由、御遺族様と神田様との御連絡で判明。昨年のお賀状に「どうぞくれぐれもお大切に遊ばしますよう」とお書添え下さいましたのに、淋しくなりました。
尚、阪神大震災をテレビで見ても、同期全員関東にお住いですがお身内の御無事を祈っております。(口述)

☆高女二十一回☆ 大正十一年卒
向坂 ゆき

校門に入って右手サイカチの木を窓辺に古い小さな木造一階建、その学び舎を大正十一年春興立った私達は昨年卒寿を迎えました。送別会の席上去りゆく私達に名残惜しまれての先生方全

平成六年春のクラス会を椿山荘で開きました。出席者は小林安子、工藤美子、津島左右子、森田鷹子、源馬静江、荒井きくの六名でした。津島様は腰を骨折されて再起不能かと思われていましたが、見事快復されてお嬢様に付添われて、お元氣で出席して下さいました。ほんとうに嬉しくございました。
秋のクラス会は銀座の和光で開きました。出席者は養老道子、吉井孝子、佐藤絹子、池田恒子、森田鷹子、小林安子、内藤花子、工藤美子、川合英香、源馬静江、荒井きくの十一名でした。川合様は長い間のご静養の甲斐あってお嬢様に付添われにこやかな笑顔をお見せ下さいました。私共は心からよこび合いました。
終りに悲しい事ですが、昨年四月に高木妙子様、五月に大橋芳江様が逝去されました。冥福をお祈り致します。



☆高女二十九回☆ 昭和四年卒
中村 綾子

高女二十九回昭和四年卒の我が甲組クラスの大部分の方は、本年七回目の干支を迎えられました。誠にめでたいことと存じます。この度はクラスとしての特色の一つを披露致します。今から三十年前に、クラスの一部の方々の発案で回覧ノートをはじめたのです。ノートはルーズリーフで、簡単な規約のもとに、クラス中を何回となく巡回し、今日までつづいているので

員の合唱にみんな泣いた日、その夜ふけるまで最後のお梅のひもをどくことの出来なかつたあの時は、八十年に近い昔となりました。

昨年十一月木下重様のご逝去で遂に二十八名を失いました。心を盡して探し遂に諦めざるを得なかつた「不明」の「福の神」こと小原綾子様を除き十五名、でも長期御入院中の日野・大谷・高橋の皆様をはじめおからだお勝れになりません方が大部分とはまことに悲しい年令でございます。中で一番お元氣なのは峯島様、遠州流茶道の重鎮として現役の御活躍に加え折目正しき峯島家の要としても何彼とお忙しい日々はただ驚嘆申上げるのみ、クラスの為にもいまだにお盡し下さって、クラスよりの卒寿のお祝として見事なシクラメンの鉢を皆様銘々にお喜びいただけましたも峯島様のおかげでした。長い長い八十年を顧みて私達はなんとよいクラスであったかと必々思います。
第二、第二と学校と友達の自慢ばかりしてると亡夫に笑われました私、なつかしい母校と恩師、そして故人もふくめ導いた友は、九十才の今日なお私の誇りであります。
伝統に輝やくわが母校竹早、永遠に栄あれ!

☆高女二十六回甲☆ 大正十五年卒
木村 陽江

草の貴重な紙面を私共のために与えて頂き感謝でございます。限られた紙面に果して何が書けますか、思いづくままを記してみます。一昨年内山様、秋山様でクラス会をして下さる筈でしたが両方の御主人様の御病氣で中止になりました。其の後お二人共お元氣に

す。巻頭には、はじめた当時お元氣だった担任の江本ヨシ先生のおかきくだされたものが、今も大切に保存されています。先生はクラスの一人一人にやさしい言葉をかけて下さいました。
ノートには、皆さん詳しく近況報告を書いて下さり、折々のスナップものせて下さいましたので、クラス会とは一味が違ったお親しさを感じ、友情の絆はしっかりと育てられたように思われます。ノートがまわってくる時は、前の方から必ずお電話があり、丁寧に包装されたノートは書留で配達されました。勿論近い方は、楽しい出逢いで手渡されました。このノートに対するクラスの方の思い入れは大変なもので私達クラスメートの宝なのです。今年のクラス会は三月末、長谷川様宅で開かれる予定です。

☆高女三十回乙☆ 昭和五年卒
伊藤 光子

現在私は、高女在学中通って居た所に住んで居ります。昔は牛込の家から北側に母校が見えましたが、今はビルに邪魔されて眺める事が出来ません。
私は二十代の頃二人の親友を失いました。あの頃若人の命をうばう病が流行してました。彼女の結婚の時、お色直しの赤の衣裳が彼女の大きな瞳・白い顔にはえて、和装のフランス人形の様でした。伝通院に新婚家庭を持たれて、誰もうらやむ様な御生活でした。それが突然、前から入院生活をしてらっしゃる事は知ってましたが、御主人様の電話で東大病院にかけつけました。もう幾ばくも無いとの事、ベッドの中の手は何時もの彼女のやわらかいそれでした。共に学び、共に遊び、か

わい秘密を楽しみ、それはすばらしい青春でした。私は感謝します。すばらしい青春を残して下すつて。

そしてもう一人の友は、学校時代から机を並べていて、卒業してから英語の得意な彼女は専門学校に行きました。感性鋭く、私は何時もやつつけられていました。私に強い刺激を与えて下さった二人は、いません。

人生って悲しいものですね。寂しいものです。でも、なつかしい。私も八十三才、二人の友と別れて半世紀以上もたった訳です。

☆高女三十二回 ☆ 昭和七年卒 諏訪 静子



筆会報第五号で予告いたしましたのが、祝会寿朱堂会を昨年五月十七日上野の海燕亭でいたしました。身体の具合は皆それぞれに言いたい事はありませんが、写真で見るとは若々しくて元気そうではありませんか。皆に会いたくて埼玉・神奈川・静岡はもとより岡山県からも出席されました。

賑やかでとても楽しかったことは申す迄ありませんが、柴田様の即興の句が当日の様相をすべて語って下さっていると感佩します。無断で申し訳ありませんが、ここに御紹介させていただきます。

れておりますが、関西連会の方々の安否が気遣われます。一日も早い復興を祈ります。

☆高女三十七回紅 ☆ 昭和十二年卒 福田 輝子

卒業以来、何十年もすぎましたが、結束はかたく、一年一度のクラス会を楽しみに集まりをつづけております。

この三年ばかりは十一月最終日曜日を級会の日と定め、赤坂の吉祥でなつかしい顔合わせを心待ちにしております。関西から一番電車で馳せつけて下さる方々もおられ、平均二十数名が美しい趣向をこらしたお料理を味わいながら、昔のセーラー服時代のことからはじまり、近況を語り合い、病気の対処法に知恵を出し合い、連帯感を深めて時間の経つのを忘れてしまいます。数人の仲間と古典文学の講演、観劇小旅行などを楽しみ、キネスブックに載るような付合ひもつづき、竹早の学舎で育まれた友情を感謝しております。



☆高女三十八回 ☆ 昭和十二年卒 瓜生田 俊子

一昨年に鹿江さんの御尽力でクラス会が出来ましたが昨年は休みました。本年は篤寿会のお知らせをする時に皆様のご意見をお聞きして決めたいと思います。

昨年、島田さんが大塚みどりの郷に入居していらっしやることが判りましたので、近くの鹿江さんと私が、別々

せて頂きます。 「傘寿なほ 女は女 春の夢」

☆高女三十四回 ☆ 昭和九年卒 岡 茂子

私共は今年卒業六十周年を迎えました。幹事が相談し、甲乙合併のクラス会を開いたのは六月十七日(金)の、朝から暑い日でした。会場のホテルサールートの車庫一校亭は冷房がよく効いていて寒い位で、十二時から二時半頃まで楽しい時間を過ごしました。

出席は甲組十名、乙組十一名、合計二十一名でした。欠席の大方は、体調に自信がなかったり、足の痛い方、すっかり出不精になってしまった方、病人の看病に追われる方等で、私達の日常が僥げられるような思いが致しました。然し、御出席なさった方の御近況を伺うと、七十八年間のさまざま苦勞を何とか乗り切られた、ある運命と明るさがあった、とても嬉しく互いに励まされました。

殊に母の目を前にした朝日の夕刊に「娘から母への贈物」個展のプレゼント「は野口(大野) 文子さんの記事でした。早く御主人を亡くされた野口さんが一人でコツコツ描きためたパステル画の人物・風景・静物が神田の有名なギャラリーに展覧され大好評でした。当日御持参下さった絵を拝見しながら御幸福を喜び合いました。

歲月の病息災草の花 良子 われに残る日を思ひをり富浦の湯 茂子

に訪問しましたら、大変喜んで下さいました。お得意の絵を沢山見せて下さいました。遠くの後藤さんは、前に訪ねて下さっていますし、細谷さんもお便りで慰められ、感謝していらっしやいます。又お訪ねしたいと思っております。

皆七十も半ば近くなりましたので、お互いの健康を祈ります。

☆高女三十九回 ☆ 昭和十四年卒 四谷 桂子

毎年春にクラス会を開催しておりますが、平成六年度は新宿ホテルサンルート内の車庫で致しました。

久々に元気なお顔が十七名参加されました。皆様第二世代そのままのよう。昔の想い出話を花を咲かせたり、また今日この頃の様子を話したり、アツという間に時間が経ってしまいました。

しかし年を重ねてまいりますと、外出の御無理な方も増えてまいりました。昨年四月十五日には、永い間病床におりました池上文字子様御他界なされました。心より御冥福お祈り致します。皆様どうかますます健康に留意され、今年のクラス会でお目にかかりますよう楽しみにしております。

☆高女三十九回白 ☆ 昭和十四年卒 大津 雅子

クラス会は年一回を予定しておりますが、昨秋二年ぶりにクラス会を致しました。遠く福岡や山口から出席された方もありお互いに再会を喜びました。段々と「又来年ね」と気楽に言えないような年令になって来ました。

☆高女三十六回 ☆ 昭和十一年卒 小林 英子

平成六年私共壽を迎えましたが、平均寿命の延びた今日、まして実感がなく皆様それなりにお元気にお過しの様です。その中で長い間病氣治療中の引地孝様が三月に亡くなられましたことは淋しく、心から御冥福をお祈りいたします。私達加令と共に集まる機会を多くということでも二回クラス会を開きました。五月十二日より一泊二日の日程で安曇野・田淵記念館、鬼無里方面の旅行をしました。十三名参加。午後一時過ぎ、わさび田のある山荘風のたたずまいの記念館に到着。館内には自然を愛され、山や高山に情熱をそがれた田淵先生の作品・遺品が展示されており、なつかしさとすばらしい写真に感動しました。職員の方がショーケースの中から昭和十年前後府立第二高女時代のアルバムをみせて下さり、タイムスリップのひとときでした。思いを残して次の穂高神社に詣で、大王わさび田を楽しく散策。この夜は白馬東急ホテル泊。久しぶりのおしゃべりに夜が更ける。翌朝ホテルのベランダよりのすばらしい日の出に感激。八方尾根行きを予定していましたが、リフトなどの運転休止とあって兎平より残雪光る白馬連峰などの山並を眺望、水芭蕉の咲く鬼無里を最後に全日程を終り帰路に着く。推野様のお世話で「サロンカー」を使用できました。こと、より楽しい旅行になりました。

六月六日写真会。十月三十一日、ホテルオークラ「桃花源」でクラス会を開き、二十二名出席され、楽しいひとときを過ごしました。一月十七日以来、阪神大震災による甚大な被害が報じら

☆高女四十一回 ☆ 昭和十六年卒 岡辺 宏子

クラスの皆様御元気にお過ごしでしょうか。 一月十七日の大地震、関西にお住いの方々御無事でしたでしょうか。御見舞申上げます。

昨年のクラス会は四月二十五日に銀座の清ビル内リントラウで開かれ、三十五名の出席がございました。一同古稀を迎えましたので幹事の司会で近況を発表、社会で御活躍の方々も多く感銘を受け、楽しいひと時でございました。次回のクラス会にも多数の御出席者と幹事の御言葉がありました。 四月二日に堀江(潮沢)八重子様が長い御闘病の末、御逝去なさいました。御冥福をお祈り申上げます。

服部先生は辻堂の病院へ御転院なさいましたが、とても御元気にお過ごしとの事でございます。

☆高女四十二回 ☆ 昭和十七年卒 手嶋(木暮) 實枝子

ことし四月一日で、遂に我々は全員古来稀なるトシになる。何回も会ってみんなよく騒いで、元気で若々しくて健康で、そんな我々が七十才?エ?ほんとうと、まアうそをいっちゃうけど、でもまぎれもなくトシはトシなのだ。 満州事変と同時に小学校入学以来、女学校卒業前年暮、戦争がはじまり、更に進学した人は終戦と同時に卒業(九月卒業になっていた)という、学校生活と戦争は切り離せない我々、せ



めてこのトシで、大いに青春(?)を楽しましよう。昨年は、新年会、墓寿会、クラス会、八ヶ岳寮、屋敷会、山陰旅行、など随分会いました。あまり会えない地方の方々は、消息だけはお互いに分かるようにしています。八ヶ岳寮では、薬膳料理の講習を受けたり、安曇野を廻ったり、田淵先生の記念碑も見学、僅かな期間でも担任の先生であったという思いで、なつかしくシンとした気持ちを感じました。今年も、既に新年会でもまた楽しくお喋りしました。今年一年の予定は、殆ど昨年と同じ、ただ八ヶ岳は、あしを伸ばして白馬の方へ行く予定があり、旅行は四国へ行きます。また楽しい一年を送れそうです。元気に過信しないように、がんばりましょう。

☆高女四十四回 ☆ 昭和十九年卒
末綱 京

平成六年十一月十七日、卒業五十周年記念の級会が晩秋の京都洛北の平八茶屋で開かれた。曇り空ながら穏やかな午後で、高野川の岸に沿って延びた大広間の縁側からは対岸の萬の紅葉が錦の絵巻のように美しく眺められた。まず今までに他界された担任の両先生十名の級友の御冥福を祈り黙禱を捧げて開会。久しぶりに四国から津村さん、

療養中の小川さんも迎えて三十三名が集まった。乾杯の後、京料理を味わい乍らマイクを回して女学校時代の思い出を一つ述べて貰う。厳冬の長刀の授業は足が冷たかった事、料理の時間に人参の味噌汁を習った事、教室の前の廊下をつるつるに磨き上げた事等々。賑やかに笑い乍らマイクが一巡するともう時間で、校歌を斉唱し、来年の再会を約して閉会となった。その夜はホテルに宿泊した二十名が連れ立って銀閣寺のライトアップを見物。折しも京都は遷都千二百年の祭りの時であった。翌日は十時から修学院離宮の見学。素晴らしい紅葉を堪能し、午後から自由行動に移った。記念事業として文集、名簿の作製もあり、充実した五十周年となった。

この原稿を書いている時大地震発生。夙川の渡辺さんの家が倒壊されたが、幸い皆無事で仮住居に移られた。

☆高女四十五回 ☆ 昭和二十年卒
青木 美樹子

平成六年の級会は、十月十五日(土)に、水町昭さん他三名の幹事の方々のお骨折りで、東京駅八重洲口の丸のレインボーホールで開かれました。交通の便もとてもよかったです。約三十名の方々が集まられて、楽しい一時刻を過ごすことが出来ました。今年には卒業後五〇周年ということで、臼田武子さん、南日一恵さん、平瀬栄子さんの三人の方が、幹事を引き受けて下さり、十月頃に賑やかな会を計画されて居ますので、一同楽しみにして居ります。五十周年記念という事で、何かいいアイデアをお持ちの方は、



福室先生を偲んで久し振りに積もる話に花が咲きました。福室先生の奥様より、竹早高校は戦争ご帰還後最初に教鞭をとられた学校で、大変思い出深くすごされたという、ご丁寧なご書状を頂きました。

ご覧になられた方も多いと思います。去る一月六日の朝日新聞「ひと」欄に、私共の同級生星野昌子さんが紹介されました。青年海外協力隊第1次隊員でNGO活動の草分けをされ、現在は神奈川県立かながわ女性センター館長として活躍をされています。

☆高校三回 ☆ 昭和二十六年卒
高山 富士子

昨年の十月二日(日)、二年ぶりに同期会を開きました。「昨年、墓会総会の幹事学年だったため、その慰労をかね、あわせて、遅ればせ乍ら還暦を祝う意味もこめて、少しばかり豪華にと、八芳園の日本館を会場に行いました。猛暑のあとの十月とあって、まだまだ暑いばかりの緑の美しい庭園を眺めながらの会食となりました。出席者は三十三名。何十年振りでお目にかかる方も、その間の年月はたちどころに消え、若やいだ気持ちで話はずみ、はたまた、お互いの身に振りかかった病気や不幸など、本音で語り合い、慰

幹事の方へお知らせ下さいとの事です。今回の関西大震災でも、私共のクラスでの関西在住の方々は、皆無御無事でございました。数年前に一泊旅行のクラス会を神戸で開いた時のことなどを思い出しながら、ホッとしている処です。

☆高女四十六回 ☆ 昭和二十年卒
中村 多美子

十月二十九日(土)。十月とは云え少々寒さを感じる午後のこときを、小林先生、吉田先生をお迎えし、三十四名の参加を得て、若竹会の楽しい集いの時を過ごす事が出来ました。会場は根岸の里、豆腐料理の「笹乃雪」で催しました。輪王寺宮がこの豆腐を好まれ、「笹乃雪」と名付けられた歴史があり、俳人正岡子規や内田魯庵、獅子文六等のエッセー、句もあり、文人達に愛されたという事と、食材に添加物を排した健康食という事が、何よりの決め手になりました。小林先生は広範囲になされていた講義を、奥様亡きあと整理なさって、毎日お散歩を心掛け、ご気分に合わせて、身の周りの事を自分でなさっていらっしやる由、おみあしが少しお辛い様でした。吉田先生は、立ち振るまいがすっかりしていらっしやる、お二人ともご高令を感じさせないお元気さでした。私共も早や六十五才と若いとは云えない年令になり、両先生の生活をお手本に、心豊かに過ごしたいと思いました。今年には墓寿会の当番に当ります。若竹会も例年通り秋に予定されています。皆様、お元気で集まり下さいますようお願い出来る日を楽しみにして居ります。

め合う会ともなりました。参加者一同、来年もお互いの健康を喜び、励まし合いますように再会を誓いました。尚、かねてから私共の同期会の名前を検討していましたが、「墓塚会」という名に多数決で決定いたしました。同期会当日欠席の方からも心のごもったお便りをいただき、多数の方から維持費を頂戴し、皆様のお力で同期会が成り立っていると、改めて、様々な事情で参加できなかった方のお心を感じておられます。次の幹事を秋葉(碧海)、美枝様が引き受けて下さいました。ご期待下さい。計報

加藤(高久) 侑子様 二月二十日
ご逝去なされました。ご冥福をお祈り申しあげます。

☆高校四回 ☆ 昭和二十七年卒
永野 和子

阪神大震災に関西墓会会員の皆様の被害はいかがだったのでしょうか。御見舞い申し上げます。平成六年の墓会総会は幹事さん初め同期の皆様のご協力で無事に終える事が出来ました。戦前の面影を残す若狭会館に、大中原先生をお迎えし可愛らしい歌声を会場いっぱいに響かせました。閉会後同期会「紫竹会」を喫茶室にて開き出席者六十名、先生方も六名御参加頂きました。遠方からも多数の方が御出席になり久しぶりのお顔をなつかしく楽しいひとときを過ごしました。本年は五月末に紫竹会を開く予定となっております。最近悲しい御報告もあって淋しい思いもいたしますが、年一回の集まりに大勢の皆様を御出席を御願ひ申し上げます。



☆高女四十七回 ☆
昭和二十一年・二十二年卒
須藤 芳枝

昨年の十一月二十日の日曜日、今年のクラス会幹事、衛藤、古川、真鍋様方の御盡力で楽しい一時を過ごすことが出来ました。衛藤教授の御好意で駒込の女子栄養大学の食堂で、会席料理を舌つつまみながら、お喋りに花を咲かせました。担任の河治春世先生は、お風邪で残念ながら欠席でしたが、三十三名の方が出席くださいました。私共の学年は、来る平成八年に、墓寿会の当番にあたります。今年はその前年度になりますので、墓寿会当日にクラス会をもちたいと、今年のお当番が計画しております。ひとりでも多くの方のご参加を期待いたしております。

☆高女四十九回 ☆ 昭和二十四年卒
☆高校二回 ☆ 昭和二十五年卒
鮎澤 和代
山崎 みさき

昨年四月十九日、池袋のレストラン「パリの朝市」でクラス会を開きました。平成四年私共の学年が墓会総会の幹事でしたので、クラス会を延期しており、四年振りとなりました。加藤先生を中心出席者三十名、故

☆高校六回 ☆ 昭和二十九年卒

小山 紀久弥

〇四二四(七二)五七九一

西森 道子

〇三(三四一三)三三四三

竹早高校卒業以来四十一年、私共も選擧を迎える年令となりました。

本年秋には幹事さんが、学年会を御計画下さる相づきをいただきますので、ぜひごお楽しみになさって下さいませ。

昭和二十八年年度学生会は、私共高校六回生が、幹事学年に当たります。その総会を恙無く遂行致します為、同期生の皆様方に、何卒強力な御力添えを御願ひする次第でございます。本年度は見習学年として、先輩五回生の御手伝いをさせて頂きますので、御協力を戴けます方は、どうぞ御連絡下さいませ。又六月三日の如水会館での本年度総会にも是非御出席下さいまして、来年度総会の為の良御智恵を御持寄り下さいませ。

常日頃学生会には御無沙汰の私共学年でございますが、せめて当番年度の総会は無事に運営し、その責務を果たせましたらと希って居ります。

尚、私共と一緒、当番幹事をお務め下さる四十七回生(本年卒業生)二十七回生(五十年卒業生)の皆様もどうか多数の方々の積極的な御協力を御願ひ致します。御参加戴けます方々の御連絡御待ち申し上げて居ります。



飛び出し爆笑の中、夜の更けるのも忘れる程でした。

翌朝、(これだけは新式の)給ガラス張りの広いテラスでコーヒーを楽しんだ後、待ちに待った先生のお話し！

現代中東地域研究の第一人者であられる先生(一昨年東大を退官)は、スエズ動乱の翌年(一九五七)颯爽と竹早に赴任され、二年生の私達を虜にしたのでした。(私達の為に)平易で運びぬかれた的確な言葉と明晰な語り口、先生の御著書のひとつ「石の叫び」を読破して予習して来たお勉強好き(?)の旧竹早生は、暖炉で赤々と燃える薪の爆せる音だけが聞こえる静かなホールで三時間半、三十七年振りの講義の一言半句も聞き漏らすまいと熱心にノートをとりました。

中東問題とは極めて現代的な問題であること、後半のお話し「地域研究」でのアーバンライフへの模索は二十一世紀を射程に入れた示唆に富むものでした。(数日後ノーベル平和賞がアラファト議長とラビン首相との報にウーン)質素な山荘での豊かなお話し、これ以上の贅沢はない至福の二日間でした。

◇◇◇◇◇

「八ヶ岳景」

「八ヶ岳景」は、二十二年間、多くの竹早高生を育てて来ましたが、時代の変化と建物の老朽化により、一九八一年には生徒の利用は中止となりました。しかし、一九八三年、設立当初のPTA役員の一入であった故沢登幸明氏は、その荒廃ぶりに心を痛め、私財を擲って改修に着手。再び緑豊かなたけこの山氏が急死され、施設の撤去、借用地の返

☆高校七回 ☆ 昭和三十年卒

志賀 真砂子

七賢会の皆様へ

三月五日(日)恵比寿ガーデンプレイスに於て、同期会を開催いたします。多数のご参加をお待ち申し上げます。平成九年年度の同窓会総会は、七賢会の幹事担当となります。会場の手当、備品の検討等、皆様の協力とお智恵を集めなければ任が果たせませんので、この事を念頭におかれまして、六月の総会に多数ご参加下さいます様、お願い申し上げます。

二月三日記



☆高校十回 ☆ 昭和三十三年卒

角掛 隆



私達は昨年八月二十日帝國ホテルにて会費一万円で開催を行いました。出席者は約七十名。先生は小野・笹山・辻・加唐(旧姓間瀬)・小島・江渡先生がご出席され大盛会で

還の危機にみまわれましたが、遺児の岩田隆平氏を中心に数名の同窓生の協力により、財団法人「竹早会・八ヶ岳寮」の名で細かな灯がともされ続けています。同窓生の皆様の御後援、よろしくお願い致します。

☆高校十七回 ☆ 昭和四十年卒

對崎 俊一

平成六年は同期生全体としての活動・行事が特に開かれなかった一年でした。個人的には、猛暑の八月、海外へ赴任する事になった同級生の歓送会へ出席するようとの声がかかり十名程の旧友にお会いしました。なかには卒業以来初めての再会という方もいらっしゃいました。やはり、その方なりの面影が感じられ、楽しい会ではありました。

平成七年も今のところ同期生全体としての予定はありませんが、例年、六月に開催される学生会の総会への参加を呼びかけたいと思います。必要があれば小生が連絡役をつとめさせて頂きますので、ご一報下さい。

☆高校十九回 ☆ 昭和四十二年卒

中田 省三

私達の同期会も、今年で十回目を迎えることになりました。昨年の会場で名称を募集し、多数の応募の中から、角田君の「一休会」が選ばれました。この名に相応した会に育ってゆくことを期待したいと願っています。私事ですが、それこそ「恍惚の間」に四十六年間に過ぎ去ってしまった感じがします。深雪道 来し方 行方

した。今年同期総会はありませんが、気軽な旅行会、夏には暑気払い、暮には忘年会を計画しています。同期会で不明な事は不肖万年幹事の私まで。

計報

江森 盛彦君 三月九日

渡辺(服部)慶子さん 四月七日

逝去なされました

冥福をお祈り申し上げます

☆高校十一回 ☆ 昭和三十四年卒

堀江(足立)禮子

「錦繡の秋を楽しみ、八岳寮」で板垣雄三先生のお話しを聞く会」

お喋りと食事だけでは少々物足りないと感じた我々五十代、卒業後に完成したと言われる「八岳寮」を一度見てみたいと思い、高校時代、鮮烈な世界史授業で私達を引き付けて下さった板垣先生のお話しを(不遜にも)再び伺ってみたい思いから、有志で計画しました。

遠足気分よろしく新宿駅に集合した三十余名は車中で第1次同期会を終了。清里駅から数時間、名物のソフトクリームを頬張りながら山麓の秋を満喫し、暮色迫る頃寮へ。初めて見る「八岳寮」一六十周年記念事業の一環として建設され、多くの竹早生を育み、又癒してくれたその建物は二万坪の広大な敷地の中に、一昔前の懐かしい仕様でひっそりと建っていました。(一九六一年より使用)。

夜はお近くの別荘に御滞在の先生御夫妻(奥様は十回生の才媛)にもお出願ひ、慎ましくも心のこもった夕食を残さず頂きながら歓談、秘話も次々と

相似たり、：中年のほろ苦い心境です。白髪まじりの頭をお互いに眺めつつ酒を酌み交わすのも味わい深いものです。ポツリポツリと語る言葉に耳を傾けると、その人の卒業三十年あまりの重みを感じます。たかだか四、五時間の宴ですが、自分の来し方、行方に思いを馳せつつ、ゆったりとした気持ちで「ひと休み」を味わえたらと思えます。

今年の同期会は五月二十日(土)十八時三十分より新宿西口の「新宿モリス」で開かれます。

トピックス

城戸崎 要さん

(昭和18年卒・高女48回生)NHKテレビ8月13日(月)放送で「NHK放送開始70周年記念」の感謝状をNHK会長川口幹夫氏より手渡されました。協会事業の発展に長年に渡り尽くされた功労のあった部外の人々(高田好胤氏他15名)に送られたもので、城戸崎さんに送られた感謝状の内容は次の通りです。「今日の料理」に出演し、講師として明るくわかりやすい語り口で視聴者の共感をよび、料理番組の充実発展に貢献した。

マママ・マンさん(本名天野正之氏)

(昭和38年卒・高校10回生)

8月8日(金)読売新聞夕刊7頁人間の記録欄で次のように紹介されました。

「パロディのママ・アマノさん(56)

が「天下り新聞」五〇〇円を創刊した。大手書店で発売中。夕刊タブロイド版で8頁のすべてが新聞のパロディで、痛烈にコミカルに政治の官僚支配を皮肉る。

「アメリカではニューヨーク・タイムズなどのパロディ新聞が多く、日本でもできないかと10年以上前から狙っていた」が内容に気兼ねして印刷会社がなかなか引き受けられず、編集もボランティアの力を借りるなど苦勞の連続。それでも「日本にも辛口のパロディを」と年に三、四回テーマを変えて出づける計画とか。

文責 角掛 隆(高校10回生)

おたより談話室

汗して働ける老後を

神戸 照子(高女三十三回)
(昭和八年卒)

「こゝ老人健康村」美ら寿(群馬県吾妻郡中之条町上沢渡)に移り住むようになったから二十余年の歳月が過ぎ去りました。私は子供時代を東京の文京区竹早町で過ごし、府立第一高女を昭和八年に卒業致しました。

二十歳のときに神戸正一(当時東大経済学部助手)と結婚。夫はずいぶん支那事変に、そして再び六年後の一九四一年に二兵卒として応召致しました。応召に際し夫は次のように私に言い残して征きました。

「父子二代、学問を以て世の中に少しづつでもよい、お役に立ちたいと心がけてきた。僕が帰ってこなくてもどうか明るく、生きてほしい。君には勉強がしてほしいのだ。勿論、経済学や財政学というのではない。君には君としての勉強があるだろう。僕に分までしてくれ、希望と信頼と愛の中で」この言葉は、それ以来ずっと私の心の宝物となりました。

留守を守る生活は疎開先の農村の娘さんたちと、洋服といけばなで親しくなかよくなりました。農繁期には炊事や赤ちゃんの世話などに明け暮れる日々でした。

一九四五年敗戦。夫はフィリピンに連れだされたまま、未帰還。行方不明という厳しい現実には、生き残ったことさえむしろ悲しくて幾度死を考へました。しかし、夫の残した言葉と周囲のあたたかい思いやりによって、その悲しみから立ちあがり、女一人生きる決心をしたのです。



しばらくの時が過ぎ夫の遺骨(箱の中には夫の名の書かれた木片が入っていました)が還ってきたのはいいようのない嬉しいことでした。

私は、戦争とは異常な状態なのでから語ることはすまい、と心に決めていました。しかし今はそれはいけない事かも知れない……と。戦争を知らない世代の人たちが、毎日の生活の中で、生命を粗末にしているのを見るにつけ、戦争の悲惨さ、生命の大切さ平和の問題について語り伝えねば、と思うようになってきました。

☆ ☆ ☆

ある時期から私は、人は皆、老人になるのだとハッキリ意識するようになりました。六十歳を一つの節目として生涯のしめくりを、ふれあう方たちと一緒に、働き人として新しい道を

歩み出したいと願いました。

「自然の恵みの中で、最後まで汗して働く老後」と周囲の人々に呼びかけるとき、奇蹟のようなことが起きました。本当にたくさんの人々の善意と働きが実って「美ら寿」が生まれたのです。

生まれた赤ちゃんをジーンとみている時も、幼い子どもたちと何でもない会話をしている時も、フッと風がきてその風がどこへか過ぎてゆくように、誰でもが老いてゆく。そしてそれは決して淋しいことでもなく、悲しいことでもなく、むしろ楽しいこと、すばらしいことと本気になって考えるようになってきました。

人の終りのひとときを、意識して具体的に、毎日朝起きるから寝る時まで自分の責任で、喜びの中で、できるだけ自分を捨てて、おのかたをひたすらに思いながら生きてみたい。若い人の足手まといになるべくならないで……と願う日々です。

万葉集にもうたわれた有笠山(この地域のシンボル)が四季折々の姿をみせます。

だれもが天からいただいた魂の鈴を、終りの時まで静かに鳴らすこと、このことが生きる喜びに違いありません。

「誰でもみんなおじいさんになる。誰でもみんなおばあさんになる。木も草も、小鳥たちも、山の動物たちも。そして、石も、山も、音をたてずに。黙って老いてゆく。時を知らずに消えてゆくみんな。新しいものの誕生をねがって消えてゆく。」

いつまでも消えないこと。それは——新しいものの誕生につながって消えてゆくこと。そうかも知れない。いそ、それこそほんとうのきめことだったのでしよう。天の摂理とは、このことなのではないでしょうか。作・神戸照子

※注 神戸照子様からお寄せいただきました(婦人の友社)「明日の友」65号の取材原稿を基に編集させていただきました。



改築下における体育授業

体育科 俵田 浩一
(高校三十三回生)

皆様御存知の通り、現在竹早高校は校舎改築のため体育施設がありません。その中で、どのように体育の授業を行っているのかを、会報を通して皆様にお知らせします。

まず最初に、現在の竹早高校の体育の授業時数ですが、各学年男女ともに週8時間あります。2時間続きの授業と1時間の授業に分けてあります。2時間続きの授業では、主に外部施設を利用して、主に外部施設を利用して復帰時間を含めてです。活動時間は正味60分位になってしまっています。さて、平成元年に改築工事が着手してから7年目になりました。平成元年にグラウンドが使用できなくなり、平成2年の月からは、体育館(柔道場、剣

道場を含む)も使用できなくなりました。文字通り、何もなしの中での授業が始まりました。

平成5年3月に1期工事が終了し、校舎とプールが完成しました。現在学校内で体育の授業として主に使われる場所は、校舎1階会議室(普通教室3教室分の広さ)と地下1階トレーニングルーム(本来定時制用食堂をパネルで仕切って使用)の2カ所です。2カ所とも、本来の使用目的とは異なる使い方ですが、緊急の代替え措置として、学校内で認めてもらいました。その他に、屋上プールなどがあります。もちろん、体育の授業を行うには、これだけではできません。そのために外部施設をいくつか借用しています。以下それらの施設の概略を説明します。

- ①文京スポーツセンター 茗荷谷の駅前におり、学校より徒歩で約15分かかります。バスケットコート2面、バレーコートなら3面とれる広い体育館で、柔道場、剣道場、卓球場もあります。週に1〜2日、その他部活動などで、主に1年生の男女が使用しています。
- ②文京総合体育館 湯島4丁目にある体育館ですが、遠いために、往復徒歩の都合バスで約20分かけて移動します。バスケットコート2面分、バレーコート2面分の体育館で、柔道場、剣道場、卓球場もあります。週に1日午後のみ使用で、3年生の男女が使用しています。
- ③文京区立小石川グラウンド 徒歩で約15分かかるグラウンドですが、正規のサッカーコートがとれる広いグラウンドです。体育館もこのグラウンドで行なわれます。週に1日、主に2年生の男子が使用しています。

④文京区立後楽園少年野球場 徒歩で約15分かかる野球場です。ソフトボール1面の広さで、週に1〜2日、主に3年生の男女が使用しています。

⑤東京都立文京盲学校 徒歩約15分の所にある都立の学校ですが、週に1日だけ先方の体育の授業がない日に、体育館とテニスコートを借用しています。

以上5カ所が現在体育の授業用に借用している施設です。

一方、内部の施設の使用法としては、会議室では80量の畳を敷いて柔道を行ったり、15台の卓球台を並べて卓球を行ないます。

地下トレーニングルームでは、ウェイトトレーニングができるように大型のマシンやベンチプレス用ベンチなどが9台、その他ダンベル、バーベルなどのフリーウェイトが一式、自転車エルゴメーターが16台揃っています。これらの器材を使用してトレーニングの授業を行なっています。

屋上では、バドミントンやユニホック、プールでは水泳(夏の短い期間のみ)を行なっています。

このように、外部施設使用を中心として授業を行なっています。しかし、このような形で授業を行なうには、多くの方々の協力があって初めて可能になります。

対外的には、文京区の教育委員会や各施設の職員の方々に大変お世話になっております。一方、学校内では、校長、教頭始め、事務室の方々に御苦労をおかけしております。また、施設によっては、曜日が限定されるために、学校の時間制を体育科最優先で組んでもらっています。そのため、他の教科

の先生方にも多くの苦勞をおかけしております。このように、体育の授業については、学校の中や外で、全面的に協力をしていたらいい状態です。なんとか授業が成り立っている状態です。最後に、平成8年1月には、2期工事終了し、体育施設が完成します。校地が狭いため体育館は地下になり、1階部分に柔道場、剣道場、トレーニングルーム、音楽室、美術室、各準備室が、1階の屋上部分が人工芝の人工グラウンドになります。体育館は地下にあり、窓が一方方向にしかありません。そのため、温度、湿度、換気の面で、普通の体育館より悪い条件となります。生徒の体調や安全面の配慮から空調（エアコン）を設置してくれるように都に要望したのですが、予算がないということになって認めていただけませんでした。



地方大学、ただの助教

高知大学理学部地学科
小玉 一人(高校十二回生)

高校時代は、まさか大学で教える身になることは、つゆも思わなかったのだが、いつのまにかその職について十年になる。それも都会ではなく、田舎も田舎の、小、大学。着任時のカルチャーショックは大きかった。それまで三十年余、東京に住んでいた人間がいきなり四国のまんなかに放り込まれたのである。立ち直るのに、まる二年かかった。苦勞話にはことかかないが、ここでは地方国立大学、しかも理学部という、およそ世の中の役に立ちそ

うもない学問をするところに属する一教官のありのままの姿をご紹介しよう。一般に、大学の先生にはかなりの自由時間がある。早く言えば、ひまである。理科系の教官なら、講義は一週間に数コマ、多い人でも五コマはないだろう。これらの講義やその準備の時間を差し引いた残りの時間をどう過ごすかは、まったく各人の自由である。研究しようが、自宅にこもって居眠りをしようが構わない。それでも、理科系の先生はまだましである。一応、毎日出勤する。文科系の先生になると、講義の日以外、大学に來ない人が多い。おまけに講義が終わればさっさと帰宅する。これを自宅研修といっていて、天下公認である。学生時代、理科系だった私は実験で帰宅の遅くなる毎日であり、午前中の講義に出るだけでよい文科系学生が羨ましかった。大学に職を得て、その違いが教える側にもあることがはじめて分かった。文科系を選ぶべきだった。

私の出勤時間は、だいたい八時半から九時の間、平均より少し早い。しかし、自宅から車で十分ほどの距離からいばるほどのことではない。研究室に入る、まずコーヒを一杯。もちろん美人秘書などいないから、自分でいれる。次に、コーヒをすすりながら、コンピュータで電子メールをチェックする。最近では便利になった。国内はもとより、海外との連絡も電子メールで即座にできる。講義がなければ後はまったく自由。文献を読んだり、書きかけの論文を書いたり、実験をしたりである。しかし、一番大事なことは、議論をすることだと私は思う。この点、地方大学の人間は恵まれていない。学生はいても、まともな話相手にはな



ない。専門を同じくする同僚もいない。年数回の学会や研究会が貴重な議論の場となる。しかし、ぼやいてはほじまららないので、適当に学生に議論をかっかける。一度これをやりすぎて、ゼミの最中に女子学生が泣きだしたことがあった。こっちは議論のつもりなのに、これには困った。これに懲りて、その後、卒業研究に女子学生は取らないことにした。なにより「*先生は恐い」という根も葉もない風評が広まったのにはまいった。それが今年、どうしても我が研究室に入りたいたいという奇特(?)な女子学生が現れた。今度は気がつかっている。我々の時代には、学生が先生に気をつかった。今は逆である。

帰宅は七時前後。原稿書きや実験などで、キリの悪いときはもっと遅くなる。遅くなっても、もちろん残業手当などない。自由に使える時間は多いが、報酬の裏付けはない。なんだかんだで、就寝は十二時を過ぎる。ひまなようので、結構疲れる毎日ではある。

ちなみに大多数の国立大学の定年は六十三ないし六十五歳。例外的に若いのが、東大の六十歳。優秀な後進に早く道をあげよ、ということであろう。年金支給が六十五歳からになる、と聞いて世の中が騒ぐとき、大方の大学の先生は定年後すんなり年金生活に入れる。恵まれていないようであって、やはり恵まれているのだろうか。

そういえば、過勞死した大学の先生の話など聞いたことがない。

会報通信

本年も編集後記を書く季節が、めぐってまいりましたが、本年は明け早々に、阪神大震災が恐ろしい牙をむきました。歴史に残る大きな、人的、物的な損害になりました。阪神地方の方には、心よりお見舞いを申し上げます。今このころ阪神地方にお住いの、学生会員の方の人的被害は、聞いておりません。せめてもの幸いでありませぬ。学生会として、何か役立つ事をしたいものであります。

今年には暖冬と言われておりますが、残雪量は多く、桜の花の開花の時期も遅れそうとの事、統計と体感が狂っているようです。そうこう言っているうちに、異状に投機的に思える円高問題、地下鉄のサリン毒ガス事件、等々。世の中が、どうなっているのか、判断に苦しむ年回りのようです。せめて学生会の中だけでも、暖かい、楽しい雰囲気、で過せればと思いつつ、編集会議で、月一回竹早高校に來る度、見せられる学生会の跡地に建つマンション。非常にくやしき思いを感じます。先輩方が貴重な浄財を集めて、後輩の我々に引き継いでくれた、貴重な財産のほずだったのに、一部の判断で、小額の現金に換えられてしまいました。残念な事でありませぬ。こうなってしまうからには、二度と判断を間違えな

く、その現金を竹早高校と学生会の為に有意義に使用される事を望みたいと思っております。学生会の為に建てられた会館です。処分されたものが、学生会の為に使用されないのであれば、先輩方の意志も無視する事になります。会員の皆様の大部分が、そう考えておられると思

います。御意見があれば、どしどし編集部に送って下さい。学生会の理事長理事の方に申し伝えたいと思っております。

竹早高校の創立二〇〇周年が近づいております。去年より、学校側、父母の会、学生会が定期的に二〇〇周年に向けての準備を始めております。学生会の会員の皆様が、一番資料を持っていると思っております。個人でみれば、三年間ですが、それが個々に集まり、学生会になれば、貴重な歴史になります。その資料を集めております。会員の皆様の御協力をお願いいたします。二〇世紀が二世紀に変わる時、その時が竹早高校の創立一〇〇周年です。重ねて、御協力をお願いいたします。

今回の編集には、五回生の有志の方が参加してくれました。多彩な分野の方が、いろいろの知恵を集めてくれて

会報が出来上りました。表紙の雰囲気も変わり、総会の案内も変更されております。読んでの感想や御意見をどしどし編集部まで、お送り下さい。いいも悪いも楽しみにしております。

会報の編集には、多方面の違った才能、感性の人が必要であると思っております。マンネリにならないためにも、会員の皆様にとつて、読んで、楽しく、会報が必要と感じられるようになるために、編集は大事だと思っております。編集に興味のある方の協力をお願いしたいと思います。それでは又、来年お逢いたいと思っております。

吉岡 忠俊(高校十三回)

会計報告(5号)	
平成7年2月15日	
払込及び現金送金・寄付	2,381口
〈収入の部〉	
正味金額	2,350,000
広告代金	984,528
受取利息	82,587
合計	3,367,115
〈支出の部〉	
会報発送費	976,659
制作費	1,681,281
編集費	201,015
宛名シール代	55,121
発送屋食代	67,422
合計	2,981,498
差引残高	385,617
1~4号残高	6,162,997
合計	6,548,614
定期預金(郵貯)	6,000,000
第一勧銀(普)	88,211
郵便貯金(普)	322,940
現金	137,463
合計	6,548,614
会計担当	森本美智子
以上相違ないことを認めます。	
平成7年2月15日	
山廣 俊雄	

会費払込のお願い

会報は皆様の御協力のおおかげで発行されております。なお一層の御協力をお願いいたします。同封の振込用紙(振込手数料はiriません)にてお忘れなく

会報委員会一同

高校5回生は今期総会の当番を勤めます。
 会員の皆様のご参加をお待ち致しております。

幹事一同 岡原弘子 植本鞠子 川崎富美子 木下和子
 坂本たま子 曾我部久子 鹿倉孝子 瀬川佳子
 重田敏江 菅沢百合子 高澤悦子 山方百合子
 八木茂太郎 金森延武 当麻春海

株式会社 東京プリント印刷

取締役社長 金森 延武

〒112 東京都文京区小石川5-31-8 ☎03-3811-3314代 FAX-03-3811-3319

昭和28年卒・高校5回生

書道家

吉田珠鳳
 (昭子)

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-12-404

昭和28年卒・高校5回生

(有)中川
 クリーニング店
 中川 城幸

〒173 東京都板橋区板橋3-10-7
 ☎03-3961-0972

昭和28年卒・高校5回生

書道家

山方香溪
 (百合子)

『実用書道から芸術書道まで』
 御希望に合わせ、ボランティア
 精神でご指導致します。
 通信教育可

〒191 日野市西平山2-6-36
 ☎0425-83-5008

昭和28年卒・高校5回生

(広告ではありません)

長い間、霊園管理の仕事を致しており、使用者の相談をお受け致しております。
 仏事に関する承継等、法的問題(墓地埋葬等に関する法律)、墓地に関する事
 お聞きしたい事がありましたらご相談下さい、お役に立てると思っています。
 出来ましたら書面でお尋ね下さい。ご返事を書面で郵送致します。

勤務先 築地本願寺 西多摩霊園 東京事務所 管理部次長 八木茂太郎

郵送先 自宅 〒277 千葉県柏市豊四季台3-1-65-204 昭和28年卒・高校5回生

竹早高校同窓会の発展をお祈り致します

簞会理事 鈴木 直道
 福田 啓民
 同期会幹事 八木茂太郎

昭和28年卒・高校5回生

栗山整形外科病院

病院長 栗山 栄

〒319-4 茨城県日立市日高町3-8-3 ☎0294-42-8100

昭和28年卒・高校5回生

写真家 齊藤 康一

〒106 東京都港区
 西麻布3-17-36
 ☎03-3403-0021
 FAX-03-3422-2166

昭和28年卒・高校5回生

祝 同窓会

当麻春海

〒243-04 海老名市勝瀬7-2
 ☎0462-31-6558

昭和28年卒・高校5回生

東京成徳大学 (男女共学)

人文学部(日本語・日本文学科、英語・英米文化学科、
 福祉心理学科)

千葉県八千代市保品字中古谷2014 ☎0474-88-7111

東京成徳短期大学 (女子)

文科(国文専攻・英文専攻) 幼児教育科
 東京都北区十条台1-7-13 ☎03-3908-3533

グラフィック・デザイン

Take 龍 Ryu Inc.

工芸制作 坂本たま子

有限会社 〒115 東京都北区西が丘1-5-14
 テイク・リュウ TEL 908-8486 FAX 908-8487

昭和28年卒・高校5回生

<p>酸洗鋼板・熱延鋼板 シャーリング・スリット・レベラーカット 加工販売 貴金属シール・サイン</p> <p>泰誠産業株式会社</p> <p>代表取締役 内山 光 政 昭和33年卒(高校10回)</p> <p>台東区上野3-13-1西武ビル3階 ☎ 03(3836)1068</p>	<p>奄美クルマエビ(株)</p> <p>専務取締役 上野 国 衛 昭和33年卒(高校10回)</p> <p>☎894-05 鹿児島県大島郡笠利町手花部353-1 TEL 0997(63)2406 FAX 0997(63)1351</p>	<p>ホテルロイヤルオーク五反田</p> <p>ニッセイ通商社・髯オークピア 代表取締役 楢 林 丘 至 昭和33年卒(高校10回)</p> <p>☎141 東京都品川区西五反田1-9-3 ☎ 03(3492)5111</p>
<p>料理 研究 家</p> <p>城戸 崎 愛 (昭和18年卒・高女43回生)</p> <p>☎160 東京都新宿区大京町14 ☎03(3351)5562</p>	<p>パロディスト マッド・アマノ (天野正之)</p> <p>☎114 東京都北区上中里1-14-2 ☎ 03-3910-3051 昭和33年卒(高校10回)</p>	<p>ホテルの事ならどのような ご相談にも伺います。</p> <p>東京ホテル企画株式会社</p> <p>代表取締役 片野 基 之 昭和33年卒(高校10回)</p> <p>☎330 埼玉県大宮市宮原町2-88-1 TEL 048(651)5521 FAX 048(651)5524</p>
<p>平河法律総合事務所</p> <p>所長 稲見 友 之 (昭和33年・高校10回生)</p> <p>☎102 東京都千代田区平河町1-5-167オキスタジオビル 電話 03(3261)1411</p>		<p>伝動機器販売並製作OA機器販売</p> <p>株式会社 堀田本店</p> <p>代表取締役 堀田 佳 予 子 (高校7回生・昭和30年卒)</p> <p>本社 ☎ 101 東京都千代田区岩本町2-8-1 4 TEL 03(38862)7221 代表 FAX 03(38864)4949 船橋営業所 千葉県船橋市夏見4-1-11 TEL 0474(24)6910 代表 FAX 0474(24)6925</p>
<p>日本陰陽暦日対照表(加藤興三郎編著)旧姓・間瀬先生 がなんと1500年間約50万日分の「こよみ」を本にしました。日本 経済新聞に8段ぬきの記事として、とりあげられたのが きっか けとなり産経新聞や大分合同新聞等の地方新聞各紙に記事として 掲載されたり、国際交流基金のニューズレターで全世界で紹介さ れ、アメリカのハーバード大学・プリンストン大学・公立クリ ブランド図書館等へ納入され、只今大好評発売中です。</p> <p>国文学古典の読解鑑賞・歴史上の諸事件の確証 天文・気象・農業学の検証に役立つ本</p>		<p>和暦と西暦(ユリウス暦・グレゴリオ暦)の比較対照が 一目でわかる「日本陰陽暦日対照表」出版発売元 はほんようききつたいしゅうひょう</p> <p>※自費出版のご用命はぜひ当社へ</p> <p>ニット出版企画</p> <p>☎113 東京都文京区千駄木3-22-11-623 ☎03(3821)0210 FAX03(3823)0064 高校10回生・昭和33年卒 角掛 隆・昌枝(旧姓・三部)</p>

専門体育教師による水泳・体育指導
個性を伸ばし、のびのびと明るい、元気な子を育てる

日進まこと幼稚園
☎331 大宮市日進町2-1048(丸広百貨店南隣り) ☎ 048-663-0938

第二まこと幼稚園
☎331 大宮市日進町3-193(日進北小東隣り) ☎ 048-664-1785

園長 野尻 国彦(昭和41年卒・高校18回)

毎週木曜夜7時~9時、日進北小体育館でママさんバレーボールの練習をしています。お近くの方はどうぞご参加下さい。

ボルボ正規ディーラー

ヨシダ・オート株式会社

代表取締役 吉田 光 之 (高校17回)

☎113 東京都文京区向丘1-7-14
☎ 03-3818-8551 FAX 03(3818)4734

クスリの御相談は

株式会社 フヂヤ薬局

薬剤師 小川 英 康(昭和40年)

東京都墨田区墨田5-39-4 TEL(03)3611-6519

淑子の鍼灸室

室長・国立国際医療センター麻酔科勤務(月・水)

医学博士・鍼灸師 藤 田 淑 子(昭和23年卒)

診療日: 火・木・土(限定予約)

☎113 東京都文京区本駒込3-34-3
TEL 03(3821)7075 FAX 03(3822)2986

都立竹早高等学校(5)改築工事 来春の竣工目指して

建築工事 飛島・岩井建設共同企業体

飛島建設株式会社

代表取締役社長 石原昭一郎
専務取締役東京支店長 傳田勲郎

本社 東京都千代田区三番町2
☎ 03(3263)3151代表
東京支店 東京都千代田区三番町6-1
☎ 03(3263)2255代表

岩井建設株式会社

代表取締役社長 岩井 隆

本社 東京都文京区小石川1丁目13番11号
☎ 03(3815)8911代表

機械設備工事 協栄・高橋建設企業体

協栄施設株式会社

代表取締役 河内 威

東京都文京区向丘2丁目14番2号
☎ 03(3821)6181

株式会社 高橋管工社

代表取締役 高橋金治郎

東京都文京区本駒込2丁目27番16号
☎ 03(3944)6451

電気設備工事

文京電気工業株式会社

代表取締役 岩淵 稔

東京都文京区春日1丁目11番17号
☎ 03(3813)4661

静岡キタハイの川根茶
山 廣 園 本 店
専務取締役 山 廣 俊 雄
昭和30年卒(高校7回)
〒112 東京都文京区小石川4-21-1
TEL 03-3811-2002・0565

水声社のドイツ文学書
19世紀

★ A. シュテフター作 谷口泰訳
『ガティコ・蕃薇と剣の物語』全三巻
(本邦初訳・個人訳)

★ 上智大学教授 谷口泰著
『A. シュテフター研究』新刊
(文京区小石川2-7-1 岩間ビル2F)
TEL. 3818-6040
資料請求先: 高校5回卒・谷口(梅沢)俊子
03-3929-1608

林道社のドイツ文学書
(19世紀)

★ W. ラーベ作 谷口泰訳
『ライラックの花』(本邦初訳)

★ Th. シュトルム作 小山田豊訳
『ある画家の作品』(本邦初訳)

上尾市大谷本郷47-12
TEL. 048-725-0978
資料請求先: 高校5回卒・谷口(梅沢)俊子
03-3929-1608

校 医 河野歯科医院

〒112 東京都文京区小石川1-16-11
河野ビル
☎ 03(3811)5456

山田化学薬品株式会社

代表取締役社長 山田隆英
〒103 東京都中央区日本橋本町3-3-14
TEL 03(3241)1203代
FAX 03(3242)7555
山田(片桐)通子(昭和35年)

ゴルフ用品専門店 群馬プロゴルフショップ

代表取締役 山田 米造プロ
山田満由美プロ
山田満寿子(昭和29年卒)
〒371 群馬県前橋市大手町2-3-10
☎ 0272(21)2446

紙 の総合商社

株式会社 深 山

東京都台東区元浅草1丁目1番3号
TEL (3842) 1211 (大代表)

バイオ理化学実験器械 販売 テクノス株式会社

代表取締役 新井 堅 司
昭和30年卒 (高校7回)
〒113 東京都文京区本郷2-17-8
TEL 03-3814-2066
FAX 03-3814-2060

株式会社 日 東

〒116 東京都荒川区荒川4-33-2
☎ 03(3802)4521
吉川 凱 江
昭和19年(高女44回)
〒116 東京都荒川区荒川4-33-2
☎ 03(3891)2020

信州八ヶ岳高原でペンションフェローズを開業して16年がたちました。同窓生の皆様のお越しを心からお待ちしております。

料 金 一泊2食(税込)7,600円から
(金曜パック、学割パック有り)
食 事 洋食中心
プレイ テニス・スキー・釣り・
バードウォッチング・etc
みどころ 公園・牧場・美術館 etc



ペンション フェローズ
PENSION FELLOWS
phone 0266-74-2433

〒391-01 長野県諏訪郡原村17217-1676 久保 亘(昭和38年)